

利用者の死亡事件時の経過と社会福祉事業団職員による対応  
(事業団からの聴取等により現時点で把握している経過等)

平成 26 年 1 月 17 日  
障 害 福 祉 課

○亡くなられた利用者は、入所以来、重い病気に罹ったことはない。年に数度の発熱や胃腸炎により内科の受診を受けているが、処方された服薬により治癒している。  
今年度は、発熱と咳など風邪の症状で受診した他は、特に体調不良は見られなかった。

○亡くなる 1～3 週間前

健康面での異変は見受けられなかった。

(毎日、起床時と午後 1 時に検温し、食事の摂取量や排便の状態など、日々の支援の中で確認している)

○11月24日(日)

夕食前から夜間にかけて 2 度の嘔吐(17:30 及び 20:00)があった。これまで、食べ過ぎや水の飲み過ぎにより嘔吐することがあったため、経過を見守ることとした。(施設長には報告されていない。)

外傷やアザは確認していない。

注 1) 職員の 1 人が、15 時頃、利用者の腹部を蹴っていた。

注 2) この日より前から、複数の職員が、それぞれ暴行を行っていた。

○11月25日(月)

食事の量が減った。発熱、嘔吐はなかった。

19:00 頃 夕食後の歯磨きの時、顔色が悪く、ふらつきがみられた。別の職員から施設長に、状況の報告と、リーダーに外部受診を相談したと報告があった。

通院のため、玄関で別の職員が靴を履かせていると、急に脱力し、呼吸が浅くなり意識を失った。

職員 1 名が施設長を呼びに行き、携帯電話で 119 番し、救急車の出動を要請した。

電話に出た 119 番の消防署員の指示を仰ぎ、駆けつけた施設長ともう一人の職員で、ベンチの上に横になった本人の背中を叩き、吐しゃ物を除去し、気道の確保を図った。その後、119 番の消防署員の指示に従い、心臓マッサージを行い、常備している AED を使用した。その後、AED の音声ガイド

に従い、心臓マッサージを再開し、救急隊員が到着し、引き継ぐまでの 10 分ほど応急対応を行った。

19:25 救急隊が到着し、駆けつけた救急隊員により心臓マッサージが続けられ、医療機関に救急搬送された。

応急処置、CT 検査を受け、その後 ICU 治療室に移動した。

21:30 医師から「病名は敗血症で、多臓器不全の状態」であり、危険な状態であるとの説明を受けた。

注) 施設長からの聴取の概要：この日の朝の引き継ぎ時（毎朝、夜勤職員から前夜の状況の報告を受ける）には、別の利用者の家族との面会があり、その対応のため、サブマネージャーが引き継ぎ報告を聞いたが、自分が報告を聞いていたら受診させていたかも知れない。ただし、後に、リーダーに確認したところ、利用者は以前にも嘔吐したことがあった。25 日の昼食は量を半分にした。検温も行ったし熱はなかった。

○ 11 月 26 日（火）

深夜 搬送先医療機関で亡くなった。

医師から「敗血症による多臓器不全」と説明を受けた。